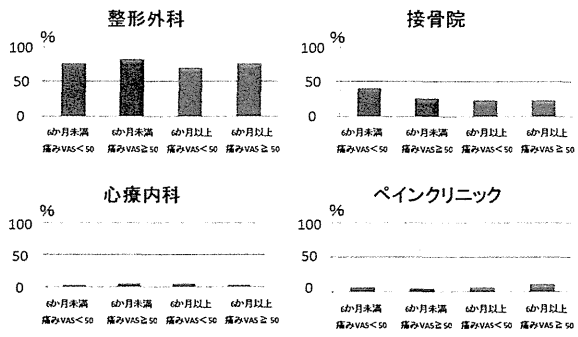
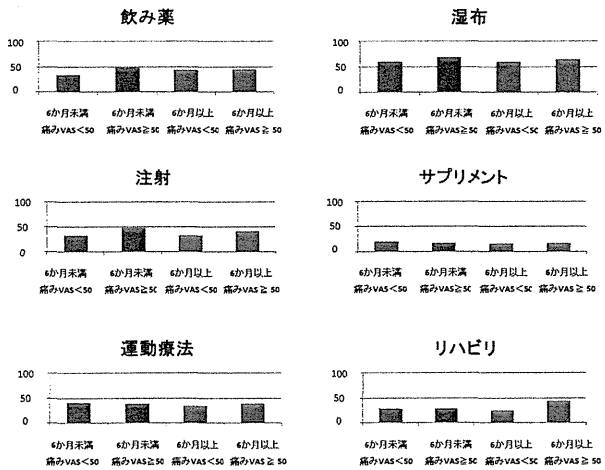
ると、主観的痛み強度（VAS）に有意差が認められ、長期間の痛みを持つ人は、痛みそのものが強くなる傾向が示されていた。

(2) 痛みの罹病期間と痛みの強さ別にみた、診療機関の違い



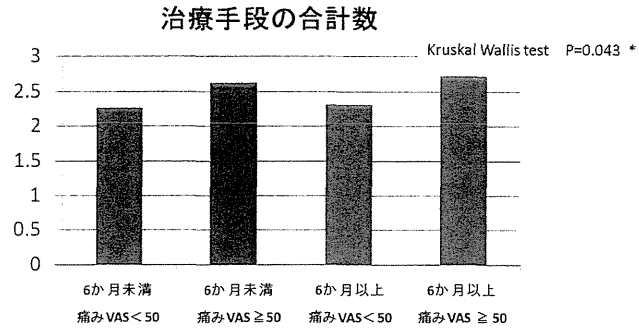
：いずれのグループにおいても、整形外科を受診する割合が圧倒的に多く、ついで接骨院の順であった。半年以上痛み VAS≧50 のグループでは、ペインクリニック受診割合が若干増える傾向であった。

(3) 痛みの罹病期間と痛みの強さ別にみた、治療手段の違い



：いずれのグループにおいても、湿布薬の使用頻度が最も高い傾向がみられていた。また、半年以上痛み VAS≧50 のグループでは、リハビリ治療のニーズが高くなる傾向がみられた。

(4) 痛みの罹病期間と痛みの強さ別にみた、治療手段の数の比較



：半年以上痛み VAS≧50 のグループでは、より多くの治療手段を必要としている傾向があり、各グループの治療手段の数（平均）には統計学的有意差が認められた。

② 医療者研修会の開催実績

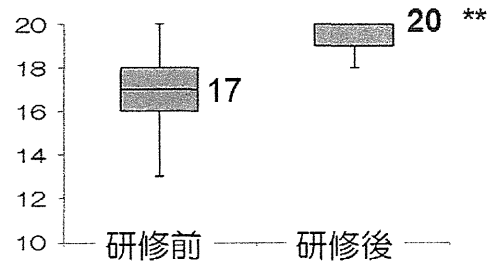
(http://www.pain-medres.info/professional/group/index.html)

(1) 名古屋開催：慢性の痛みワークショップ
開催日時：H24 年 10 月 28 日（日）10：00～15：00
開催場所：名古屋市　愛知県青年会館
参加人員：19 名

(2) 東京開催：慢性の痛みワークショップ
開催日時：H25 年 6 月 23 日（日）10：00～15：00
開催場所：東京都品川　京急第 2 ビル
参加人員：53 名

(3) 大阪開催：慢性の痛みワークショップ
開催日時：H25 年 11 月 17 日（日）10：00～15：00
開催場所：大阪府　新大阪丸ビル
参加人数：54 名

○ 研修前後で行った理解度試験の結果（20 問）



※研修前後に行った理解度試験の成績（中央値）。
：研修前後に理解度試験を行うことにより慢性痛に対する知識の向上が確認された（Wilcoxon signed-rank test, $^{**}P<0.01$）。

D. 考察

米国ワシントン大学の Loser 博士は、現在の「慢性的な痛み」に対する診療の問題点として、除痛治療アウトカムの信頼性低さや、治療を行う医療者側の知識不足及び不十分な医学教育を、また慢性疼痛患者のオピオイド薬への耽溺性を提唱している[2)]。つまり、「慢性疼痛を診療する医療システムの構築」のためには、その前提として「医療者への教育」と「一般国民への教育」が不可欠であると考えられる。「痛み」及び「情報」を検索ワードとした Web 情報は溢れており、病院や様々な商品広告が多くみられるが、医療者ですら十分な痛み診療の教育がなされていない現状では、一般市民がそのニーズを抽出する能力「痛みの情報リテラシー」は不十分であると考えられる。今回 3 年間の研究期間内において、その研究の目的の一つである「痛みに関する情報を統合する機関」の整備に関しては、他の厚生労働省慢性の痛み対策研究班と意思疎通を図ることにより、それらの情報を統合可能な機関としての整備が整ってきたと思われる。今後は、本組織体制を、より信頼されうるものとして継続して運営していくことが重要である。

一方で、慢性疼痛への治療法は多岐にわたっており、医師が個人レベルで行われていることが問題点としてあげられているが、その対応策として、ノルウェーでは、オピオイドやベンゾジアゼピンなど痛み治療における耽溺性に関する薬の使用は、すべて処方歴の登録が行われていたり、またカナダのケベックでは、慢性疼痛に対する治療に対して、受診する患者の過去の治療歴、質問紙法や、新しい治療のアウトカムに至るまでデータベース化し解析するような取り組みが行われている。本研究期間内に開催した市民公開講座のアンケート調査結果をみても、内服・注射治療は痛みの治療手段としてなくてはならないものであると考えられ、各薬剤の使用状況については今後も注意深くフォローする必要があるものと考えられる。

今後は NPO 法人を慢性痛情報の主要機関として活用し、「一般市民」及び「医療者」に対して、定期的に、市民公開講座や医療者研修会の開催していくこと及び、正しい痛み情報の Up to date と統合を行うことで、より一層信頼性の高い痛みの教育の普及活動を行っていく予定である。

F. 参考文献

1) Green CR, et al. Analysis of the physician variable in pain management. Pain Med. 2001 Dec;2(4):317-2

2) JohnD.Loeser; Five Crises in Pain Management.Pain: Clinical Updates, Jan 2012 Volume XX, Issue1

G. 研究発表

池本竜則　他、「市民アンケートからみた痛みの診療の実態調査」第 6 回日本運動器疼痛学会　平成 25 年 12 月 6 日（神戸）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1.　特許取得

該当なし。

2.　実用新案登録

該当なし。

3.　その他

該当なし。

Ⅲ．研究成果の刊行
に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
柴田政彦	痛みを有する患者に対する薬の使い方	米延策雄、菊池臣一、柴田政彦	長引く・頑固な・つらい痛みの薬物療法2011 運動器編	シービーアール	東京都	2011	12-35
住谷昌彦、竹下克志	神経障害性疼痛	米延策雄、菊池臣一、柴田政彦	長引く・頑固な・つらい痛みの薬物療法2011 運動器編	シービーアール	東京都	2011	38-54
竹下克志	疼痛―診察のポイントと評価の仕方	菊池臣一	運動器の痛みプライマリケア 頚部・肩の痛み	南江堂	東京都	2011	12-13
柴田政彦	各種治療手技の概要と適応―集学的アプローチ	菊池臣一	運動器の痛みプライマリケア 頚部・肩の痛み	南江堂	東京都	2011	31-32
柴田政彦	神経障害性疼痛と運動異常	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	77-82
井福正貴、井関雅子	糖尿病性ニューロパチー、薬物性ニューロパチー	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	117-123
長櫓巧、武智健一	三叉神経痛	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	124-132
田中聡、川真田樹人	腕神経叢引き抜き損傷後痛	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	152-160
細井昌子	一般心理療法	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	337-342
有村達之、細井昌子	認知行動療法	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	343-349
住谷昌彦、宮内哲、山田芳嗣	神経リハビリテーション	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	375-379
住谷昌彦、山田芳嗣	集学的治療	眞下節	神経障害性疼痛	克誠堂出版	東京都	2011	388-392
柴田政彦	CRPSの痛み、Ca2+チャネルα２δリガンド(プレガバリン)はどのように使用すればよいですか？	宗圓聰, 紺野愼一	運動器の痛みをとる・やわらげる	メディカルビュー社	東京都	2012	66-69、133-136

柴田政彦	集学的アプローチ	菊地臣一	運動器の痛み　プライマリケア 膝・大腿部の痛み	南江堂	東京都	2012	31-32
柴田政彦	集学的アプローチ	菊地臣一	運動器の痛み　プライマリケア 下腿・足の痛み	南江堂	東京都	2012	31-32
柴田　政彦, 植松　弘進	遷延性術後痛に対するこれからの治療戦略	川真田　樹人	痛みのScience & practice 手術後鎮痛のすべて	文光堂	東京都	2013	247-250
松本　守雄, 渡曾　公治, 柴田　政彦			腰痛のベストアンサー（ポケット版）	主婦と生活社	東京都	2013	
柴田　政彦	硬膜外麻酔	萩平　哲	増刊レジデントノート あらゆる科で役立つ！ 麻酔科で学びたい技術	羊土社	東京都	2013	107-112
柴田　政彦	高齢者の痛みに対する薬物治療	山本　達郎	痛みのScience & practice 痛みの薬物治療	文光堂	東京都	2013	86-91
柴田　政彦, 松田　陽一, 眞下　節	神経ブロック療法	花岡　一雄	癌性疼痛	克誠堂出版	東京都	2013	203-209
柴田　政彦, 牛田　享宏	治療に必要な痛みの分類	日本整形外科学会 運動器疼痛対策委員会	運動器慢性痛診療の手引き	南江堂	東京都	2013	21-24
安田　哲行, 柴田　政彦	糖尿病性神経障害	小川　節郎, 牛田　享宏	痛みの診療 ベストプラクティス	メディカルレビュー社	東京都	2014	112-113
植松　弘進, 柴田　政彦	複合性局所疼痛症候群（CRPS）	小川　節郎, 牛田　享宏	痛みの診療 ベストプラクティス	メディカルレビュー社	東京都	2014	124-125
柴田　政彦	遷延性術後痛	川真田　樹人	新戦略に基づく麻酔・周術期医学 麻酔科医のための周術期の疼痛管理	中山書店	東京都	2014	29-34

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
柴田政彦	厚労省「慢性の痛み」をめぐる動きー新たなステップへ	ＰＡＩＮ　Ｌａｂ. ペイン・ラボ	Vol. 10	2-3	2011
柴田政彦	痛みのメカニズムと評価－神経障害性疼痛－	整形・災害外科	Vol. 54 No. 12	1455-1461	2011
柴田政彦	慢性の痛みの診かたと治療	大阪府内科医会　会誌	Vol. 20 No. 2	167-170	2011
柴田政彦	肩こり	Practice of Pain Management	Vol. 3 No. 2	4-14	2012
柴田政彦	「痛み」の教育資材作成と普及への取り組みの現状報告	JJSPC 日本ペインクリニック学会誌 第46回大会号	Vol. 19 no. 3	113	2012
柴田政彦	厚生労働省研究班による 痛み教育の取り組み	PAIN　REHABILITATION 第17回日本ペインリハビリテーション学会学術大会　プログラム・抄録集	Vol. 2 No. 2	6	2012
柴田政彦	CRPSの病態と徴候	Orthopaedics CRPSの診断・治療ガイド	Vol. 25 No. 10	1-6	2012
柴田政彦	痛みの医療における教育と 適切な情報普及の重要性	第17回日本口腔顔面痛学会学術大会 プログラム・抄録集		22	2012
柴田政彦	厚生労働省「慢性の痛み対策研究事業」について、 「慢性の痛み」へのオピオイド適正使用を考える	JPAP会員向け学術情報誌 JPAP Academic information	No. 13	10、11	2012
柴田政彦	オピオイドによる内分泌機能異常	日本ペインクリニック学会誌	Vol. 20 No. 1	17-24	2013
柴田政彦	痛みに関する教育と情報提供システム	HUMAN SCIENCE	Vol. 24 No. 1	22-25	2013
柴田政彦	疼痛の診断の進め方と薬剤選択	THE BONE　春号	Vol. 27 No. 1	49-53	2013
柴田政彦	痛みの評価尺度・日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire 2 (SF-MPQ-2)の作成とその信頼性と妥当性の検討	PAIN RESEARCH	Vol. 28 No. 1	43-53	2013
柴田政彦	被害者に発症したCRPSのジレンマ：誰のための補償か？	賠償科学	NO. 39	33-38	2013

寒 重之，大城 宜哲，高島 千敬ほか	機能性疼痛障害患者における resting-state networkの検討	Journal of Musculoskeletal Pain Research	Vol.5 No.3	S23	2013
前田 吉樹，寒 重之，大城 宜哲ほか	皮膚電位反応を用いた運動と痛みの恐怖条件付けとその消去の検証	Journal of Musculoskeletal Pain Research	Vol.5 No.3	S48	2013
史 賢林，三木 健司，蛯名 耕介ほか	関節リウマチの疾患活動性は患者自己評価に大きく影響される	Journal of Musculoskeletal Pain Research	Vol.5 No.3	S55	2013
加藤 直樹，高木 啓至，高島 千敬ほか	CRPS患者の関節可動域改善に関与する因子の検討	Journal of Musculoskeletal Pain Research	Vol.5 No.3	S82	2013
牛田 享宏，住谷 昌彦，柴田 政彦	CRPS 複合性局所疼痛症候群	Practice of Pain Management	Vol.4 No.2	80-91	2013
寒 重之，柴田 政彦	Phantom pain is associated with preserved structure and function in the former hand area	痛みの専門誌 ペインクリニック	Vol.34 No.8	1168	2013
柴田 政彦，植松 弘進，溝渕 敦子，中江 文，松田 陽一，藤野 裕士，齋藤 洋一	難治性疼痛患者の診療	日本ペインクリニック学会誌	Vol.20 No.3	209	2013
柴田 政彦	CRPS	日本ペインクリニック学会誌	Vol.20 No.3	274	2013
中江 文，安達 友紀，力石 武信ほか	痛みを癒す アンドロイドセラピーを目指して アンドロイド参加型自律訓練法の試み	Practice of Pain Management	Vol.4 No.3	176-180	2013
住谷 昌彦，柴田 政彦，眞下 節，山田 芳嗣	複合性局所疼痛症候群（CRPS）	賠償科学		628-641	2013
柴田 政彦	痛みの医療における質問票を用いた評価法の有用性と限界によせて	日本臨床麻酔科学会誌	Vol.33 No.5	769	2013
鈴木 史子，松田 陽一，前田 倫ほか	インドメタシンが著効した顔面痛の2症例	日本ペインクリニック学会誌	Vol.20 No.4	520	2013
Tsuji M, Yasuda T, Kaneto H et al	Painful diabetic neuropathy in Japanese diabetic patients is common but underrecognized	Pain Research and Treatment	2013	318352	2013
柴田 政彦	複合性局所疼痛症候群	内科系総合雑誌Modern Physician 痛みの臨床 心身医療からのアプローチ	Vol.34 No.1	57-59	2014

柴田　政彦	「施す医療」からの転換：私の診療に影響を与えた慢性痛の3症例	痛みの専門誌　ペインクリニック	Vol.35 No.2	235-240	2014
柴田　政彦	第6回日本運動器疼痛学会	痛みの専門誌　ペインクリニック	Vol.35 No.2	261-263	2014
Toshiki Nishimura, Aya Nakae, Masahiko Shibata, Takashi Mashimo, Yuji Fujino	Age-related and sex-related changes in perfusion index in response to noxious electrical stimulation in healthy subjects	Journal of Pain Research	7	91-97	2014

新聞

記事名	発表誌名	発行年月
慢性の痛み目指す総合治療 （柴田政彦）	読売新聞	2011年10月
慢性痛どう対処－多面的な取り組みを （柴田政彦）	愛媛新聞　他	2011年11月
慢性痛 （柴田政彦）	中国新聞	2012年4月
痛みよもやま話① 痛みの不思議さ　（柴田政彦）	岐阜新聞　他	2012年8月～
痛みよもやま話② 心の歪みで錯覚の場合も　（柴田政彦）	東奥日報　他	2012年9月～
痛みよもやま話③ トウガラシなどの刺激物　（柴田政彦）	京都新聞　他	2012年9月～
痛みよもやま話④ 痛がり遺伝子　（柴田政彦）	山陰中央新報　他	2012年9月～
痛みよもやま話⑤ プラセボ効果　（柴田政彦）	埼玉新聞　他	2012年10月～
痛みよもやま話⑥ 医師の言葉が脳に作用　（柴田政彦）	高知新聞　他	2012年10月～
痛みよもやま話⑦ やはり問診が大事　（柴田政彦）	日本海新聞　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑧ 痛みと医療（上）　（柴田政彦）	宮崎日日　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑨ 痛みと医療（下）　（柴田政彦）	高知新聞　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑩ 鎮痛剤　効き方に違い　（柴田政彦）	静岡新聞　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑪ 三叉神経痛　（柴田政彦）	東奥日報　他	2013年11月～
痛みよもやま話⑫ 幻肢痛　（柴田政彦）	東奥日報　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑬ 養成ギブス　（柴田政彦）	信濃毎日新聞　他	2012年11月～
痛みよもやま話⑭ 体の不調示す腰痛　（柴田政彦）	岐阜新聞　他	2013年12月～

痛みよもやま話⑮ 進歩する研究　（柴田政彦）	京都新聞　他	2013年12月～
痛みよもやま話⑯ 慢性痛と深く関連　（柴田政彦）	岐阜新聞　他	2013年1月～
痛みよもやま話⑰ リハビリで元気に　（柴田政彦）	信濃毎日新聞　他	2013年1月～
痛みよもやま話⑱ 幻肢痛に大きな効果　（柴田政彦）	岐阜新聞　他	2013年1月～
痛みよもやま話⑲ 働きたい…義足を選択　（柴田政彦）	信濃毎日新聞　他	2013年1月～
痛みよもやま話⑳ 手術後に長く続く痛み　（柴田政彦）	信濃毎日新聞　他	2013年1月～